

産業廃棄物処理計画作成（変更）報告書

令和5年6月28日

埼玉県秩父環境管理事務所長 様



報告者 埼玉県秩父市下影森1248番地
キャノン電子株式会社
代表取締役社長 橋元 健
(電話番号0494-23-3111)

令和5年度の産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画作成（変更）したので、埼玉県生活環境保全条例第20条第2項前段（後段）の規定により、次のとおり報告します。

事業場の名称	キャノン電子株式会社 秩父事業所
事業場の所在地	埼玉県秩父市下影森1248番地
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
変更の概要	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	電気機械器具製造業
② 事業の規模	6,097百万円（令和4年度付加価値生産高）
③ 従業員数	453人（令和5年度4月現在）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

秩父事業所「廃棄物削減チーム」組織図参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

別紙2のとおり

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ビニール類及び紙類（OA紙・カタログ雑誌等）の分別
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・分別の徹底による廃棄物の有価物活動 ・廃プラスチックと金属の分別 ・ 3R活動による廃棄物削減活動

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

② 計画	【目標】 別紙2のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組)	
※事務処理欄		

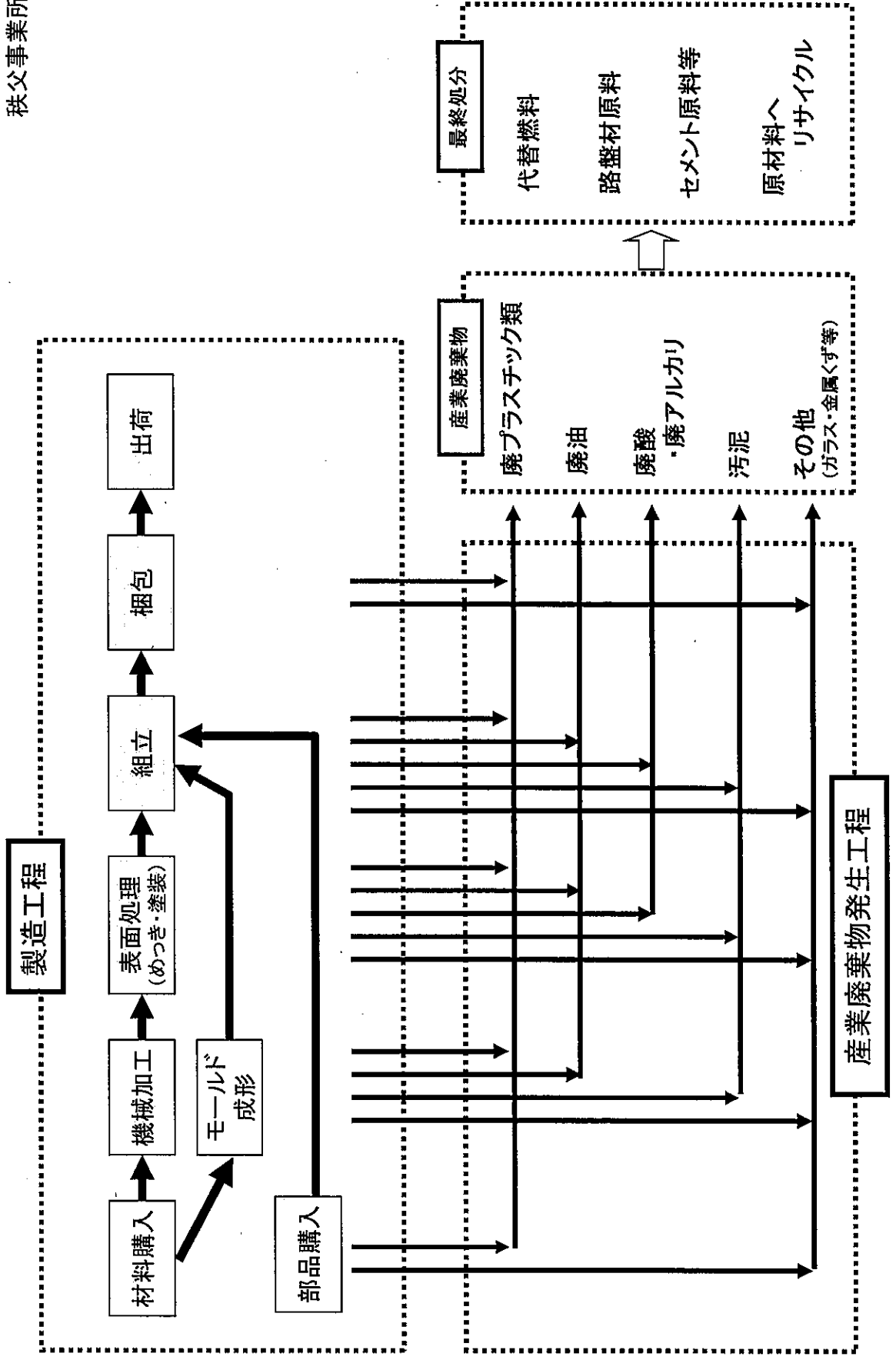
備考

- 1 「変更の概要」の欄は、変更の報告の場合に記載することとし、その記載に当たっては、変更した部分について変更前及び変更後の内容の概要を対照させること。
- 2 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記載すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記載すること。
 - (2) ②欄には、製造業における製造品出荷額（前年度実績）、建設業における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関における病床数（前年度末時点）等、業種に応じて事業規模が分かるような前年度の実績を記載すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物について発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記載すること。
- 3 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量及び自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記載すること。
- 4 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記載するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（昭和46年政令第300号）第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、再生利用業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の4の2第1項の認定を受けた者）への処理委託量並びに認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記載すること。
- 5 それぞれの欄に記載すべき事項の全てを記載することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記載し、当該欄に記載すべき内容を記載した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記載し、当該欄に記載すべき内容を記載した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記載すべき事項がないときは、「―」を記載すること。
- 6 ※印の欄には、記載しないこと。
- 7 用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

別紙1

産業廃棄物の一連の処理工程

キヤノン電子株式会社
秩父事業所



秩父事業所「廃棄物削減チーム」組織図

2023年6月1日 (01版)

<p>廃棄物削減チーム</p> <p>チーフ：秩父生産統括室 室長 事務局：秩父生産統括室</p>
--

廃棄物削減チームの主な活動

リデュース	①生産方法の改善による発生量の削減（マテリアルコスト会計） ②物流の改善による梱包材の削減（簡易梱包、通箱、梱包材返却） ③生産性向上による発生量の削減（廃材、O A紙、業務のムダ排除）
リユース	①可燃物の分別方法見直しとリユース促進による排出量の削減 （紙類、ビニール類等）
リサイクル	①生産廃材の再使用による排出量の削減（モールド廃材）
経費削減	①廃棄物の有価物化による処理コストの削減 ②排出方法の見直しによる排出工数の削減

廃棄物削減チーム構成

部 門
磁気コンポーネント製造部：製造第一課
磁気コンポーネント製造部：製造第二課
磁気コンポレンズ製造部：レンズ組立第二課
環境機器事業部：環境機器製造課
NA事業部：技術課/製造課
E I 製造部：生産管理課/技術課/Q A 課/製造課/HT 製造課
機能部品事業推進部：機能部品製造課
事務機コンポ製造部：製造第四課

3 R 活 動	全部門	(全員参加)
---------	-----	--------

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項／産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
①現状	【前年度（令和4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油	廃酸	廃アルカリ	汚泥	その他
	全処理委託量	43.5 t	0.4 t	81.7 t	7.0 t	22.5 t	2.8 t
	優良認定処理業者への処理委託量	6.8 t	0.4 t	81.7 t	7.0 t	22.5 t	2.8 t
	再生利用業者への処理委託量	43.5 t	0.4 t	81.7 t	7.0 t	22.5 t	2.8 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	(これまでに実施した取組)						
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3R活動への積極的な取組（使用量・廃棄量削減） ・ 生産性向上による原単位改善（使用量・廃棄量削減） 						
	②計画	【目標】					
産業廃棄物の種類		廃プラスチック類	廃油	廃酸	廃アルカリ	汚泥	その他
全処理委託量		43.1 t	0.4 t	80.9 t	6.9 t	22.3 t	2.8 t
優良認定処理業者への処理委託量		6.7 t	0.4 t	80.9 t	6.9 t	22.3 t	2.8 t
再生利用業者への処理委託量		43.1 t	0.4 t	80.9 t	6.9 t	22.3 t	2.8 t
認定熱回収業者への処理委託量		0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
(今後実施する予定の取組)							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3R活動への積極的な取組（使用量・廃棄量削減） ・ 生産性向上による原単位改善（使用量・廃棄量削減） 							